DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
地獄
-碧猫総集編-

収録作品

◆コメイジスケジュールAM　3

◆コメイジスケジュールPM　31

◆地霊殿ハーレム -closedβ-　62

◆さとりの居ぬ間に。（描き下ろし）　73

コヌイスケジュール
AM
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

もつれあい
あいしあい
せがみあい
もとめあう

鼻を擽ぐる
珈琲の香り――
カチャ…
AM 6:45
深い微睡みから
覚醒へと導かれる
ハァ…
朝一に会うのは
無償の愛を
捧げてくれる
最愛の存在
おはよう
ございます
よく
眠れましたか？
……
それはよかった
クス…
答えるまでもなく
彼女は
人の心を読み
一人で納得し
微笑みかけてくる

カップを一つ受け取ると香りが鼻を抜け頭が段々と冴え渡る

実に爽やかな朝であった

彼女が私の股座を弄り回そうとしていなければの話だが

ゴソ

ゴソ

もし？さとりさんや？何をしてらっしゃるのでしょう？

いえ……珈琲にミルクを入れるのを忘れてまして

ちょっと因果関係がわかりかねます

まぁなんと言いますか「こちら」も朝は大変でしょう？

せっかくなので恋人らしく処理してあげようと思いまして♡

ズボッ

ああちなみに私の手にはあなたのモノと

熱々の珈琲が握られている事をお忘れなく

ご無体な

彼女の白く細い指が愚息を這う

ピクッ

小さく可愛らしい舌で丹念に舐め取られ

チュパ

朝の冷たい外気と熱い吐息が溶け合い

唾液で濡れた部分がその空気を敏感に感じ取って心地よい快感となる

チュパ

ニュル

そのまま愚息がさとりの舌と口で弄ばれていく

単に朝だから血が巡っているのか

チュッ

それとも小さい子に朝立ちを処理させている情景に興奮してるのか

チュパ

チュパ

ジュル

どちらにせよいつもより早めの射精を余儀なくさせる

真っ白な欲望をクチュクチュと楽しそうに口内で弄んだ彼女は——

しばらくの後
自分のカップにへと
精液を吐き出した

精液入りの
コーヒーを
ぐるぐるとかき混ぜ

何事も
なかったかのように
爽やかな
朝の続きを嗜む

……あなたも
いかがですか？

……あら
それは残念

心を読まずとも
分かっている問いを
投げかけられつつ

恋人の異常な偏食に
少し呆れながら
身支度を整える

朝食も摂り終わり
各自今から
起きてきたり
お勤めに向かったりと

意外にも
自由気ままな
地霊殿の生活が
見え始めていく

カチ
カチ

AM 7:48

しかし
彼女たちは
皆揃って

チュッ

チュッ

朝の口付けだけは
欠かさずに
求めてくるので
応えてやる

チュッ♥
チュッ♥

以前は朝から
身体を重ねることも
少なくなかったが

さとりが
節制するよう
言い聞かせてから
無くなった

さとりだけが
こっそり
求めて来る時も
あるのは秘密だ

地霊殿での
お仕事が始まる

主に彼女の側で
事務仕事の
簡単な手伝いをするのが
おおよそ毎日の業務だ

AM 9:21

仕事の場でも
恋人と二人きり
という環境は――
ハァ…

彼女にとっても
願ったり叶ったり
なのだろう

ただ――
チュパ…♡
チュ♡
チュッ…♡

ハァ…

二人っきりなのは彼女の視界の範疇での話なのだが
最初から居たのに気づかなかった訳は無く
無意識下に股座へと潜り込んだこいしに愚息をしゃぶられる
チュパ♥
チュッ♥
チュッ♥
チュッ♥

…あなた？どうしました？
い…いや……

大丈夫…
うっ…
です……
うあっ……
から…ッ！
あまり反応するとさとりに感づかれる事を分かっている上で
苦しいだろうに喉奥まで使ってずっぽりと愚息を咥えてくる

小さい舌がねっとりと絡みつき絶頂を促し
根本まで飲み込まれた愚息からこいしの食道へと精液が送りこまれる

流石に限界だったのか口内で受け止めきれず

愚息から口を離したこいしに欲望が飛び散らかる

……大丈夫そうではありませんね

少し休憩をいれましょうか

そう言うと彼女は席を立ち

よいしょ…

こちらの机へと身体を乗り出して

……どうぞ

お好きなように

どうぞと言われましても

こいしもいつまでもそこに居ないで出て来なさい

バレテーラ

……そもそも隠し事ができないなんて分かりきってることでしょう

ほら……

AM 9:49

ドキッ♡

ドキッ

ドキッ

ドキッ

遠慮しないで構いませんよ

さとりの折れそうなほど細い腰を鷲掴みにし

幼い秘裂をこじ開けるように挿入する

机に押し潰すような格好で最奥まで突いてやると

何度か抽送を繰り返した後一旦引き抜き

今度はこいしの秘裂に狙いを定める

見る見るうちに快楽へと飲み込まれていくのが分かる

姉と妹の膣内の感触の違いを味わいながら
ぐちゅ
ずぶっ
欲望のまま互いの秘裂へ交互に挿入する
突く度にぶらりぶらりと動く浮いた足はまるで人形のようで
ぐぷっ
ぐちゅっ
姉妹を性処理道具のように扱っている感じがして興奮する

好き勝手に腰を打ち付けた後二人の膣内へ欲望をたっぷりと注ぎ込んだ

二人は子宮まで精液で満たされた事に快びの嬌声を漏らしていた

AM 10:31

行為を終えた後二人にお掃除してもらう

顔と同程度の大きさもある愚息にこびりついた精液を姉妹で取り合うかのように舌を這わせてくる

二人の頭を優しく撫でながら背徳的な光景と快楽を十分に堪能した

放っておけば
ずっと解放して
くれなさそうなので

仕事を理由に
なんとか
二人から抜け出す

報告と
連絡ついでに
お燐の元へ

AM 11:06

ゴン

おや、お兄さん
お疲れ様ー

報告書と
連絡要項
届けにきたよ

ガチャ

ういういい
そこら辺に
置いといてー

まぁお茶でも
淹れるから
ゆっくり
していってよ

ドサッ

朝からの営みで
身体が結構
重かったので
お言葉に
甘えさせてもらう

ソファに
深く腰を降ろし
息をつくと――

ハーー

お燐がそのまま流れるように膝へと乗り上げてくる

頬を擦り付けてしばらくの間は動かないぞと間接的に宣言された

ドキッ

スリスリ

一言何か言おうとすると

そのまま口を塞がれなし崩しにソファへ押し倒された

チュッ…

バッ

さっきまで抱いていた姉妹には存在しない

ふにょん

膨よかな双房がふにょんと押し付けられついつい興奮してしまう

両手は弾力のある胸に導かれて

キスもより一層激しいものになる

ジュル…

ムクッ…

このまま抱いてしまおうと姿勢を動かそうとした時――

あ!!!

お燐ダメだよー！

さとり様から勝手にえっちしちゃダメって言われてるのにー！

お空う……

もいちゃが悪い

ちゃんと
お仕事しないと
ダメだよー

また
さとり様に
怒られ
ちゃうよ？

いやいや
あたいが
サボってる
わけじゃあないさ

お兄さんが
職場の立場利用して
身体を要求してきたから
仕方なく
応えてるだけだよ

息をするかのように
評価を落とされた

というか
お燐さんや
それだと結構な
最低野郎なんですが

姉妹両方
お手つきにしてる
時点で何言われても
文句言えないよ
お兄さんは

そうだ
お空も混ざりなよ

お兄さんも
その方が嬉しいってさ

業務上の命令だから
大丈夫大丈夫

まー
巻き込んじゃえば
いいか

うん！
それなら
混ざるー！

少しお燐に
物申したかったが

ま、
えっちな匂い
させながら
人の仕事場来る方が
悪いってことで

ごもっともだった

後ろからお隣を抱え上げ待ち構えていた愚息で貫く

匂いに当てられていたからか既に秘所は十分に濡れており

身体をビクンと跳ねさせつつも最奥まで柔らかく迎え入れてくれた

時折漏れる蕩けた鳴き声を楽しみながら

身体を隅々まで愛撫し膣内を犯していく

はーい
お兄さん♡

おっぱいだよー♡

服を肌蹴させ
無邪気に
乱入してきたお空が
圧倒的質量を
目の前につきつけてくる

ボフッ

ジュル…

たわわな実りを
口いっぱいに頬張り
乳首を舐り
夢中でしゃぶりあげる

美味しいの。

チュパ

チュパ

くらくらするほどの
甘い香りと味が
頭一杯を支配して
蕩けるように心地よい

彼女たちの献身的なご奉仕に五感も愚息も快楽に包まれ

射精に導かれるまでそう時間はかからなかった

各々が絶頂を迎え身体をびくびくと可愛らしく撥ねさせる

あん…♡

次ぃ…私にもしてぇ…♡

あたいの身体良かったかい…？

抱かれるのをねだってくる二人を両脇に抱えピロートークを楽しんでいると

遅いと思ったら――

げ

お仕事中に随分と楽しんでいるようで

……ところでお話があるのですが

ゴゴゴゴ

ヤベッ

さとりさま。

あ

……お空を抱いた後でもいいですか？

構いませんよ

ではお燐その間に貴女とのお話を済ませましょうか

……にゃーん

PM 12:00

この後お空を抱いて二回射精した後お昼ご飯は抜きになった。午後の業務が憂鬱である。

地獄のみしか知らずにいるのは紛れもなく地獄である。
天国のみしか知らずにいるのも紛れもなく地獄である。
地獄を知り、天国を知る者のみが、楽園へと辿り着けるのだ。

コメディスケジュール
PM
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

まほらはここに在った。

実はサンドウィッチが大好物なんですよ、私

PM 12:17

非常に効率的な食べ物ですから

片手で食事を摂りながらもう片方の手で別の事もできる

食べながら仕事でもポーカーでも……

恋人へのご奉仕でも、ね？

チュコ♥

チュコ♥

さとりの小さな手が
優しく愚息を這う

ニコ♡
ニコ♡

激しさもなく
好きな時に果ててもいいと
言わんばかりの
ねっとりとした
刺激に耐えきれず

う…っ

彼女の顔に欲望を
吐き出そうとした瞬間

ビクンと跳ねた
愚息は薄切りのパンに
ばっくりと包み込まれ

ビュルッ
ビクッ
ゴプッ

カラフルな具の中へ
欲望の白色が
彩られて行く事になった

ボッ
ボッ

精液が溜まったおよそもう食べ物と言い難い『それ』を平然と口へ運んでいく

ブチュ…

グチュ…

溢れた欲望で顔を汚しながらうっとりとした顔で味わい嚥下していくさとりに「汚いですよ」と申し出ても

そんなの気になりませんよ

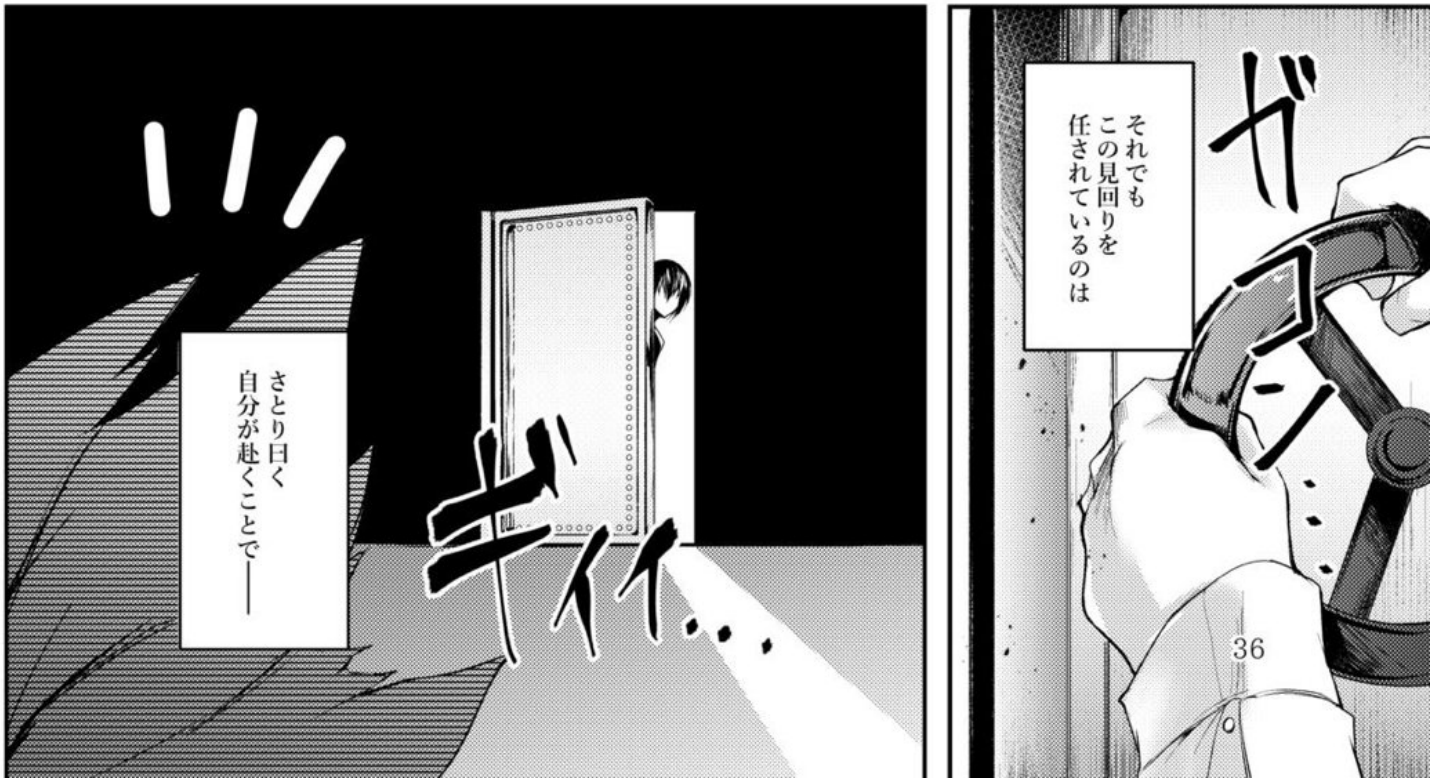
ゴクン…

あなたの汚いところも全部ひっくるめて愛してるんですから

そう返されてしまった

午後からは
間欠泉地下センターが
本稼働を始めるため
その見回りに
一人で
出向くことになる
ゴウン…
ゴウン…
カッ…
カッ…
PM 13:08

本格的な管理自体は
山の神様や河童などが
徹底してくれているし
そもそも核融合なぞ
何の装備も持たない人間の
手に負える代物ではない
ゴウン…
ゴウン…


それでも
この見回りを
任されているのは
ガコン…
さとり曰く
自分が赴くことで――
ヒイイ…

おにーさーん！

『お空の作業能率が桁違いになるから』という話のよう

スリ

スリ

効率的な彼女らしい提案だ

えへへー今日も頑張るね

空の柔らかい身体の一部が押し付けられる

つい形の良い
おっぱいに
手が伸びると

この無邪気さと
豊満な身体を
普段から堪能していると
考えてしまい
下半身が反応してしまう

ぐにゅ

あ、おっぱい
したいの？

するっ？ するっ？

おーい
炉内の数値が
不安定になってんぞー

また
あの人間が
来てんのがぁ？

ありゃ

ごめんなさーい
今戻りまーす

タタッ

お空の能力の能率を
引き上げるのに
貢献していると言えば
聞こえはいいが

カチャ

カチャ

ほらそこの人間
役目は終わりだろ

ただでさえ不安定故に
監視が必要なのに

危ないから部外者は
とっとと帰れ帰れ

さらに安定が崩れる
要因であるというのも
事実なため

現場からは
あまりいい顔を
されていない

そのため
投げられる冷たい視線が
理不尽な因縁になる前に
その場を離れる事にする

ヒソ

ヒソ

ヒソ

ヒソ

まぁ
この嫌な視線の
一番の理由として
思い当たるは

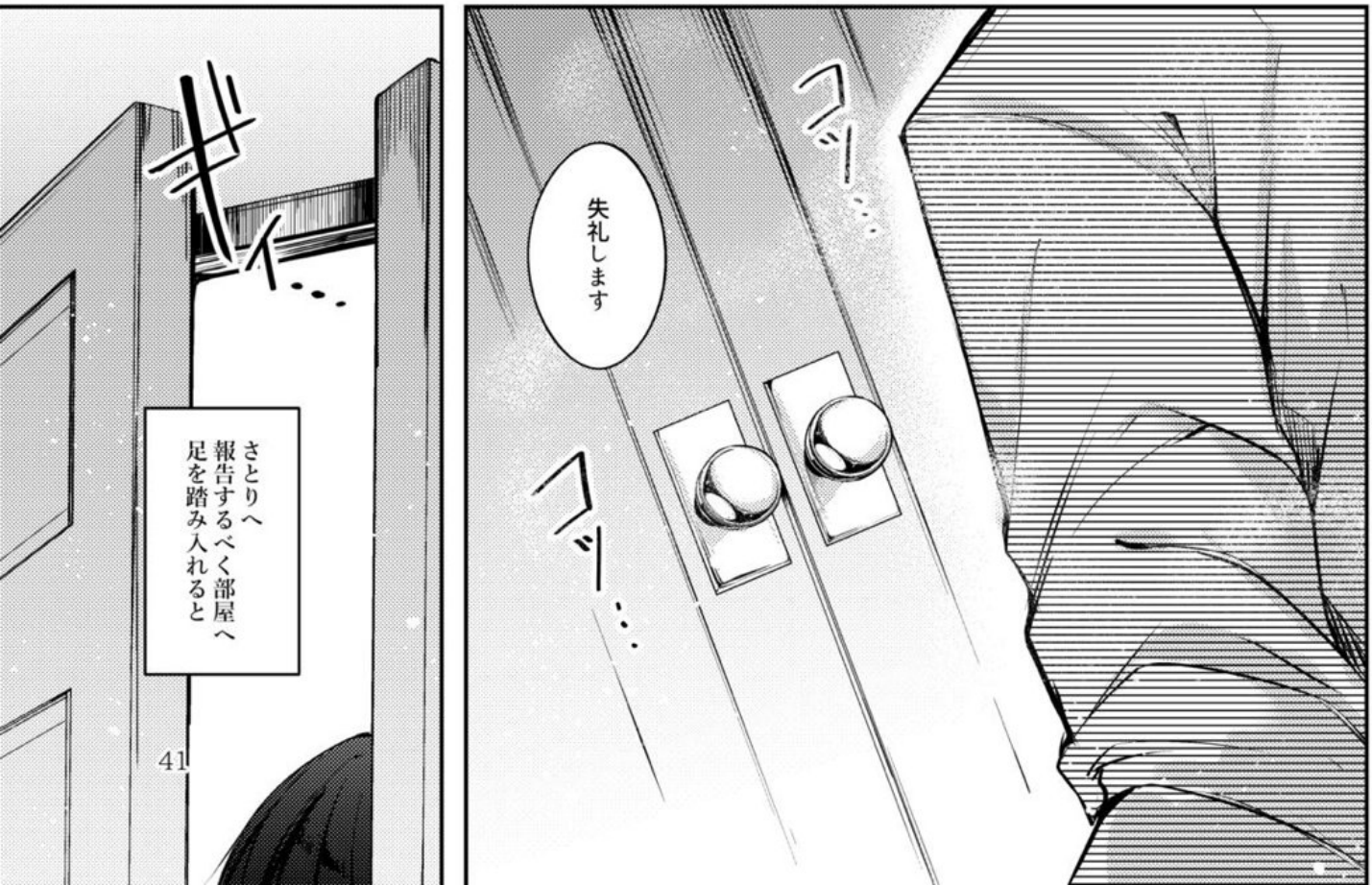
かつて炉内で
ついそのままお空と
セックスした時に――

あわや大惨事を
引き起こしかけた事が
原因なのだろうが

あれは流石に
巫女さんにも
怒られたので
反省はしている

PM 15:42
…暑い
地下のセンターが
本稼働を始めた事により
地霊殿にも少なからず
熱が篭り始める

各排熱機器や
その周囲の室温などに
問題ないか
チェックをして回り
全て
書類に描かれた
基準値内なのを確認


失礼します
さとりへ
報告するべく部屋へ
足を踏み入れると

そこには
原始的手段で暑さを凌ぐ
幼い裸族が二人
へばっていた

お疲れ様です

……
お疲れ様です

いやぁ
こう暑くては
仕事になりませんね

そうは
思いませんか
こいし

お姉ちゃんの
言う通りー

排熱機器の稼働率には
余裕があるんですから

暑いのなら見直しを
検討するべき
なのでは

何事も節約と――
はだけた衣服から
局部がチラチラ見えるように
わざとらしく手で仰ぐ
休憩は大事ですよ
あなた
地霊殿の主としての矜持なのか
どうも仕事中に堂々と
自分から求めるというのは
したくないようで
こうして非常に
あけすけなアプローチで
「お仕置きだから仕方なく」
「求められたから仕方なく」
といった形にしたいらしい

妹の方に関しては
室内ですっぽんぽんで
居ること自体が
なんかもう
楽しくなっているようだ

……ご無理
なさらないで
ください

そんな
自尊心が高いところは
彼女らしく
とても愛らしいのだが

この室温では
さとりの身体の方が
心配である

……あら
気遣って
頂けるのですか

汗だくの中
貪り合うのも一興とは
思いましたが

そう
耳元で囁かれ

体液を撒き散らしながら
欲望のまま身体を求め
好き放題に二人を犯す
光景が脳裏によぎる

ほんの一瞬のことだが
心を読む彼女に
見逃されるはずもなく

……せっかくお気遣い
頂いてることですし
今はやめておきましょうか

含みのある笑顔で
ニタリとされる

こいし
そろそろやめなさい

はーい

それでは……

スッ…

残りのお仕事も
頑張ってください
あなた♡

チュッ…♡

そんな激励と
ご褒美のキスを
ほっぺたに一つ貰う

……ただ
夜はいっぱい
愛してくださいね…♡

毎晩のように
愛し合っているにも
関わらず

こうした夜伽の約束を
律儀に交わしてくるのは
彼女の可愛らしい癖である

キスを貰ってからの
多少のニヤけ面を
気にしつつも
今日の分の仕事は
滞りなく終わり

一服でもしようと
休憩室に向かうと

ピクッ

猫耳の先客が
ソファで
うごうごしていた

んあ……

どうもおにーさん
お疲れ様ー

お疲れさま

PM 17:05

要領良くサボったり休憩していた者の精神的な疲労が増えているらしい

お燐も適度にそういった事を楽しんでいた側らしく

仕事が終わる時間帯にはもうこうして疲れ果てている事が多い

…こうお兄さんが仕事中定期的にさとり様抱くとするじゃん

うん

そうすればその時間は抜き打ち監査が来る心配がないわけで

うん

お兄さんは抱けて幸せ
さとり様は抱かれて幸せ
私はサボれて幸せ

うん

……完璧じゃね

そーだねー

至極甚だ悉く
これ以上ないほどに
無意味な会話が
交わされる

いつも通りだ

そしてお燐が
膝の上に来て
抱きついてくるのも
何時も通りである

ギュッ

ヨシヨシ

ヨシヨシ

ちょーっと
お兄さん分
補給させてねー

……んー

押し付けられた
柔らかい身体を
優しく抱き返してやる

さとり様も流石に
都合が良すぎると
思うんだよー

……あたいたちも
煙草休憩みたいにさ
定期的にこうするのは
許してくれるかな？

どうだろうなぁ

毎日の休憩と称して
自己主張の激しい
お嬢の身体を好きに抱く

外の世界で言えば
フレックスタイムと
言う奴だろうか

むにゅ♥

ぬぷっ…♥

職場で合法的に
同僚とセックス
するような

そんな光景を
少し想像して
しまったら

あはは
朝あんなにしたのに
元気だねぇ
お兄さん

ぷにゅ♥

先刻の生殺しも相まって
予想以上に
愚息が反応してしまった

どうするー？
今ならあたいの身体
好きに使っていいよ？

ムニュ♡

むにゅう♡

大変魅力的なお誘いだが
疲れてるところ
無理させるのも悪いので
やんわりと断っておく

ギュー♡

その分長めの抱擁で
お燐の匂いと身体を
十分堪能する事にした

うんそうだ
ここは一つ
交渉と行こうじゃない
お兄さん

お風呂やだよー
水浴びだけで
いいでしょー？

ジタ

ジタ

きっとそっちにも
悪い話じゃないはずだ
ねえ聞いてる？

バタ

昨日も
入ったんだから
今日ぐらい
いいじゃんー

バタ

夕飯も終え
入浴の時間

ポイ

暴れるお嬢とお空を
両脇に抱え
風呂場へ放り込む

ドボーン

ポーイ

ワシャ

ワシャ

ワシャ

ワシャ

ワシャ

ワシャ

ワシャ

ワシャ

猫と烏というのもあってか
この二人はどうも
お風呂が嫌いな様子

カポーン。

もちろん自分が
一緒に入ってあげる方が
必死の抵抗が少ないからとの事で
さとりから任されている

もう上がりたいー

ぐでぇ…

まだ10秒しか経ってないんだけど

十分長風呂だよー

烏の行水過ぎる

もうダメだ……風呂から出すかあたいを殺せ……

そこまで？

ブク

ブク

ブク

出たいよー いい子にするからー

これからちゃんと言うこと聞くからー

じゃあしっかりお風呂に入ろうね

それ以外でー

……

チュコ

チュコ

ビクッ

むにゅ

むにゅ

試しに
『泡踊りしてくれたら
上がっていいよ』と
冗談を飛ばしてみると

即座に押し倒され
ご奉仕を始められた

とびきり贅沢な
二つのスポンジが
粘り気のある音を立てて
身体へ擦り付けられる

あのまま大人しく
湯船に浸かってた方が
結果として入浴時間は
短くなったのでは
と思うのだが

面白いので
そのまま奉仕を
続けさせる事にする

拙さは残るとはいえ
二人とも処女の時から
何回も身体を重ねた身

自分を女にした陽物の
快楽のツボは感覚で
抑えているらしく

普段より
滑りの良いご奉仕で
情けなくもすぐに
何回も達してしまった

まぁ落ちとして
結局三人一緒に
のぼせ上がる事と
なるのだが

PM 21:11

明日の準備も終え
寝室に戻ると

姉妹がすでに
待機しており
ベッドに迎え入れられる

どきどき

どきどき

軽くスキンシップを
交わしながら
一日の疲れを
お互いに労りあい

今日も一日
お疲れ様でした…♡

疲れが残らないよう
いっぱい癒して
差し上げますね…♡

やがては恋人たちの
夜の営みへと
切り替わる

どちらからともなく
接触が増えてきた二人を
股座に座らせ
まずはいつも通り
姉妹二人一緒に
ご奉仕してもらう
幼い見た目の二人に
愚息を手放しで
味わわせる光景は
嗜虐心と征服欲が
良い塩梅で刺激され
非常に興奮する

細い足を掴み
羞恥の声を上げるさとりへ
お構いなしに股を開かせ
ビクッ
愚息をあてがい
小さく狭いさとりの膣内に
文字通り我が物顔で挿入する
ズチュッ
ズッ
なんやかんやと
お互いお預け状態に
なってしまったのだから
ビクッ
今夜はさとりにも
心ゆくまで
悦んでもらおう

ツプ…
こいしの方は
お仕置きするかのよう
尻をこちらへ向けさせ
無理矢理気味に
一気に根本まで
挿入する
パンッ
パンッ
ビクッ
ビクッ
姉と同様に
小さく狭い膣内は
全てを受け入れるように
異物を歓迎してくれた
ズチュッ
ズチュッ
腕を引っぱり
ぶつけ合うように
こいしの身体を
無遠慮に味わう
ぱんっ
ぱんっ
姉妹故に似たように思えて
微妙に違いのある膣内の感触を
交互に挿入しながら堪能する

小さいながらも懸命に
刺激を重ね
子種をねだって来る膣内

口・鼻・喉から
肺いっぱいまで
むせ返るような甘い香り

疲れを労るような
懸命なご奉仕を受けつつ
与えられる快楽に身を任せ

何も考えず
ただただ
この甘美な環境を
好き勝手に蹂躙する

そんな背徳的な行為に
得も言われぬ
快感を感じながら

地獄に咲く
二つの花の蜜壺を
心ゆくまで
貪り尽くさせて頂いた

AM 0:00

明日もいっぱい愛してくださいね……♡

終

地霊殿ハーレム
- closed β -
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ギシ…
ちゅぅ…
ちゅぅ…

チュパッ…
チュパッ…
ちゅぱ…
くちゅ…

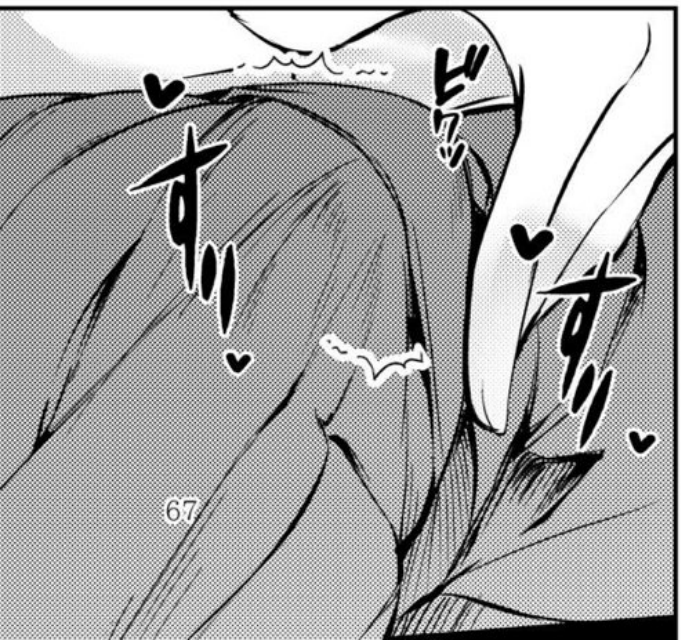
ぺろぺろ…
ちゅぷ

ブクブク…
ビュクッ
ニャ
ニャ
ぶーっ
グイッ
キュッ

ビクッ
ビクッ
ぷるぷる
ぬちゃ
キュッ
ぬぽっ
ちゅぱ

ちゅぷ
ちゅぽ
ビクッ
キュッ
ビュルッ
ビュルルッ
ドピュッ
ドピュッ

イッキュッ
レッ
むにゃ
むにゃ



むにゅ
むにゅ
サワ!

ビュクッ
シュワ
チュク

ビキビキ
カチャ
カチャ
ムギュッ
ムギュッ
ズポッ
ズポッ

ドッ
じわぁ…
ぎゅっ

ずりゅ
ぐちゅ
ぬちゅ
ぷっ

地獄の楽園に囚えられた
男の末路は記された。
書記からまろび落ちる虹はいつ見える。

地に昇る月はてらてらと
愚者を導いて枯れ果てる。

朝の光が
瞼越しの眼球を
刺激する

今日の起床は
瞼が上がるより
頭が覚醒する方が
先だった

見ていた夢が
だんだんと
白く染まって行き、
纏まりのない思考で
頭の中が埋まっていく

ああ、
今日は身体が
重いなぁ、とか

そういえば
今日はお休み
貰ってたなぁ、とか

ピチャ

ピチャ…

水音もするから
雨かなぁ、とか

そんな
半覚醒特有の心地良さを
振り払いながら
目を開けると

モゾ…

おおよそまどろみ関係無く
気持ち良い理由を
主張する存在が
いらっしゃいました

ひぎゅ…

総集編描き下ろし

さとりの居ぬ間に。

んー♥
ちゅぷ♥
ちゅぽ♥
今日はお姉ちゃんがお隣と朝早くから地上に行ってるから……
代わりにお兄ちゃんの『処理』してあげなさいって
ビク
スリ♥
ビク
頑張るから……楽にしててね♪
スリ♥
スリ♥
スリ♥

下着越しの小さい尻が
ふりふりと揺れ
視界を楽しませてくれる
キュッ
チュプ

いやらしい水音と
下半身の温かい快楽
こちらからは見えない
というのも
非常に興奮する材料だ
むに
チュ

すでに興奮していたのか
愛液を零す秘所を
舐めながら
内股で頭を抑え、
こいしの喉奥まで犯し
食道に精液を流し込む
ビクッ
ビクッ
ガク
ガク
ビュルッ
ビュルッ
んぷっ
ビュルッ
ビュルッ

ぷあっ……

チュポッ♡

ぷあっ♡

んー……
まだ元気なの？

それじゃあ……

次は
こっちだね…♡

ぴら♡

ビクッ♡

ピト♡

お姉ちゃんが
居ない間に
いっぱいしようねー♪

ニコ…♡

クチュ…♡

んあ♡…

先程まで眼前に広がっていた
小さな小さな秘密の花園へ
愚息が乱暴に侵入していく

ビクッ♡

ゾクッ♡

抵抗なくすんなりと
受け入れた
柔らかい膣内は

押し返そうと
するどころか
より深くまで侵略者を
歓迎してくれた

ぬるぷぷ…

あの小さいモノに
自分のモノを必死に
咥え込んでいる

その事を考えるだけで
股の方へ血が巡り
つい腰の動きが
激しいものになる

ヌッポ

ヌッポ

ぢゅぷっ

キュンッ♥
キュンッ♥
先程の絶頂で
敏感になっており
すぐに果てそうになるのを
誤魔化すため
太ももを抑え
未発達な花園の一番奥……
子の部屋まで一気に蹂躙する
腰を打ち付ける度
人形のように
身体が跳ね
落ちてくる勢いに合わせて
またさらに奥深くまで
こいしと繋がっていく
指では届かない
奥深くまで
えぐってやると
大きな快楽の波に
小さい身体を震わせる
もっとぉ…♥

最後は
こいしの絶頂に合わせ
最奥で精液を注ぎ込む

ビクンッ

ビュッ

子壺を満たす侵略者が
膣口から
音を立てて溢れ出ると

ブピュッ

余韻に耐えきれないのか
情けない声を上げながら
べたりとこちらへ
身体を預けに来た

ハーッ

ハーッ

びくッ

びくッ

ペタン

しあわせー…♡

ねーねー
このまま一緒に
二度寝しちゃおー…♡

いやいや
起こしに
来たんじゃないの

そう返答する
間もなく

おやすみー
お兄ちゃん……♡

絶頂の疲労で
そのまま
眠りに入ってしまった

……まぁ今日は
お休みだし……

温かいこいしの身体を
ずっと抱いてたりで
こちらも少し眠気が……

こいしの寝顔を見ながら
そんなことを
考えている内に

自分も再び夢の世界へ
引きずり
込まれていく

次に目が覚めるのは
二人共
お昼過ぎであった

お昼過ぎだと言うのに
未だ幸せ熟睡状態の
彼女が居た

クー…

クー…

起こそうと近づく際、
ふとさとりからの
言伝を思い出す

あの子は休みの日放っておくとずっと寝ようとしますから……

お昼過ぎになったら流石に叩き起こしてやってください

多少激しく起こしてやらないとちっとも起きませんのでご注意を

まぁ……後はあなたに一任します

……

とりあえずゆすってみたり声をかけてみたりしてみるが一向に反応はなく

ほっぺをつねってみても振り払われる様子もない

スー…
スー…
うーむ……
●●●
零れ落ちそうな胸が
呼吸で自己主張を
繰り返すのを眺める度

何をしても
起きないのでは、と
邪な考えが頭をよぎる
チュパ♡
チュパ♡
見るだけだから
揉むだけだから
吸うだけだから、と
際限なく欲望が膨らみ
ムニュ♡
気づいた時には
ぐっすり眠る空の身体へ
馬乗りになり
むにゅ♡
すにゅ♡
？
その立派な胸の谷間に
愚息を挟み
好き勝手に扱いていた

彼女にとって
『えっちな事』とは
不浄的な物というより
気持ち良い事という認識であり

『好きな人が
喜んでくれる事
だから好き』止まりだ

この狼藉に
気づいても
許してくれるだろう

そんな
無垢な心に反して
たわわに育った
豊かな身体を
好き放題に味わう

しかも
寝ている間に。

パーン

パーン

無知なのを利用し
増長しても
全てを許してもらえる
そんな今の状況に

罪悪感と背徳感が
同時にこみ上げ
立派な胸を
鷲掴みする手に力が入り

お空の幼さが残る顔に
白い欲望を
遠慮なしに吐き散らかす

ドピュッ

ビュルルッ

ビクッ

ビクッ

うあっ

スー…
スピー…
……
ゴク…
起きないならしょうがない
シュル…♥
グイッ♥
ピト…♥
うん、一回だけ……

気づけば頭の中で
謝罪の念が快感に
塗り替えられていく感覚の
虜になってしまっていた
膣内を擦り付ける度に
小さく体を震わせ
身をよじろうとする彼女を
逃がさないよう抱きしめる
今の状況と
同じような夢でも
見ているのだろうか
こちらを呼ぶ
可愛い寝言が
漏れ出した口を塞ぎ
五感すべてで
お空の無防備な身体を
味わい尽くす

パコ
ギシィ
ムニュ
パコ
パコ
ギシィ
——その後
寝ているお空に
三回膣内射精した
それでも彼女は
まだ起きなかった

ポフ
ポフ
おーい
起きろー
いつの間にか
お空を抱きながら
眠ってしまって
いたようで
お燐の尻尾が
てしてしと
顔に当たる感触で
目が覚める
どこにも
いないと思ったら……
お空の部屋に
居るとはねぇ

おかえり
お燐
はいただいま
……もう
お昼過ぎだよ

さとり様は？

あとは一人で大丈夫だって

立派だなぁ

……

……お兄さんは知らないだろうけどさ

地上でお供も無しこいし様も無しで行動するなんて……

以前のさとり様だったら考えられなかったんだよ？

やっぱりお兄さんが隣に居てくれておかげなんだろうねぇ

……そんな自覚はないけれどなぁ

ま、良い影響
与えてるって言うのは
間違いないって事で

クスクス

それにしても……

ギロ…

羨ましい限り
みたいな
光景ですなぁ？

可愛い子片手に
絶賛惰眠貪り中かい

ムニュ

ゲー

幸せな休日を
過ごしてるようで
大変結構

…ハイ
今起きます

いや
いいよいいよ

ギシ…

ここまで来たら寝て曜日にしちゃお？

むにゅう♡

ぎゅむっ♡

落ち着いた衣服に聳える自己主張の激しい双山が顔に押し付けられる

抱きとめるために伸ばした手が思わず細い腰を撫で

あんっ♡

ギュッ♡

ビクッ♡

そのまま蠱惑的な曲線をなぞり形の良いお尻を撫で回すように動いてしまう

ドサッ

にゃっ？

そのままぐるりと
体勢を変えさせ
お腹に上から
伸し掛かるような形になり

むにゅ
むにゅ

顎下や首回り、
尻尾の付け根から内股の辺りと
キスを落としながら
全身を隈なく愛撫していく

ギュッ

猫としての
習性なのか分からないが
身体を撫で回されるのが
好きなようで

ビクッ
ビクッ
ムギュ
ビクッ
クチュ
クチュ

緩急をつけてやると
普段のサバサバした性格からは
ほど遠い切なく甘い声が
口から漏れる

お隣の名前を呼ぶと
上気した表情で
こちらを一度
ちらと見た後

ぎゅ…♡

自分から
うつ伏せになり
腰をぐいと高く上げ

愛液でぐっしょりと
濡れた秘所を
こちらに向けてくる

ハーッ

ハーッ

ぴくっ

ぴくぴく

ぴくぴく

ぷ…♡

再び元気を取り戻した愚息を
柔らかい膣肉で
包み込んであげようと

可愛くひくつかせ
待機している入り口へ
何度か擦り付けて

お燐の身体が
快楽に跳動し

その反動を
受け止め切れなかったのか
身体が横向きに崩れ落ちる

だがそんなのは
お構いなしに
ガクガクと震える
片足を持ち上げ
行為を続ける

途中、友人の寝顔に
見られながら
犯されている事を
告げると

羞恥で顔を埋めながら
膣内の具合が
キュンとキツくなる

先ほどまで
好き放題犯していた少女の隣で
別の少女を組み伏し
まぐわっているこの光景は
こちらにとっても興奮する

ひくッ
ひくッ

ズプッ

ズプッ

ひくんっ

愚息をキツく
包み込んでくる
膣肉を
奥まで抉り分け

ドゥルルルルルッ

全てを迎え入れようとする
子宮が降りてくるのを
愚息の先端で感じながら

お腹の最奥へ
存分に精液を放つ

ドプッ

ドプッ

いつの間にやら
睡魔にも包まれて
しまったようで

心地良さを感じながら
四度寝へと
意識を手放すのに
時間はかからなかった

別に不機嫌になどなっていませんよ？

あなたが幸せなら私も幸せですから

恋人なのだから当然でしょう？

シコ

シコ

シコ

ビクッ

ちゅ

ビクッ

ビュルッ

ビクッ

スリ

ビクンッ

スリ

私としては留守にしてしまい今日一日不安でしょうがなかったですよ

——ええ、勿論

あの子たちだけで
あなたが
満足してるかどうか
心配で心配で——

大丈夫ですよ…♡

私が
もっと幸せにして
あげますから……♡

これからも、ずっと。

地天獄

2020年10月11日
東方紅楼夢（第16回）

発行・制作

碧猫（みどりねこ）

midori0014@gmail.com

みどり

http://www.pixiv.net/member.php?id=76139

https://twitter.com/midori14

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN（上海アリス幻樂団）

碧猫
みどりねこ